



小川村章

小川村議会報
第194号

議会だより

発行 小川村議会

〒381-3302 長野県上水内郡
小川村 大字高府 8800 番地 8
TEL (026) 217-1246
FAX (026) 269-3578 (代)

Eメール: gikai@vill.logawa.nagano.jp

発行責任者 小林和人
議会報編集特別委員会

印刷 (株)西条印刷所



新型コロナに対応

消費促進商品券交付



令和2年9月定例会・10月臨時会

不用額の多さに意見

令和元年度歳入歳出決算認定……………2

新型コロナウイルス対策事業費可決……………4

議案賛否一覧表……………5

小川村議会議員研修会……………5

一般質問(質問順)

新井 幹夫議員……………6 大日方義次議員……………10

西沢榮之助議員……………7 鎌倉 一夫議員……………11

西沢 哲朗議員……………8 大久保利廣議員……………12

久田 茂男議員……………9

常任委員会活動報告(閉会中の調査)

総務建経常任委員会……………13

社会文教常任委員会……………14

村民の声く村の公共施設施策に思う……………15

議会の動き……………16

議長のつづやき……………16

編集後記……………16

不用額の多さに意見 令和元年度 小川村歳入歳出決算を認定

令和2年9月定例会は、9月2日から18日までの17日間開かれ、令和元年度小川村歳入歳出決算の認定をはじめ、人事案2件、条例改正案3件、補正予算案3件の計9件を審議した。提出があった議案は全て原案どおり認定・可決した。一般質問には7人が登壇し、村政について質した。

議案第8号 一般会計・特別会計決算

決算の考察

決算審査意見書から

財政難が予想される中、計画的な予算執行が必要

平成27年度より、当初の予算編成時に財源が不足しているため基金からの繰入金を計上してきた。その後3年間は繰入金を計上してきていた。その後の3年間は繰入金を獲得するた

め、平成30年度に初めて6000万円を繰入れることとなり、令和元年度は1億円の繰入れとなった。村税など村の収入が今後増える可能性は低い

ので、財政健全化計画を作成し、歳入面においては各種使用料、手数料の適正化、歳出面においては、補助費、物件費等の削減等を図る必要がある。令和元年度には、移住定住及び人口増対策などの計画である「第2期小川村版総合戦略」を策定したが、その他の各種計画を今まで外部委託をするなど多くの費用をかけ、国の指示により策定してきている。補助金または交付金を獲得するための計画も多いが、国の指示や施策でなく、村の将来を考え、真に必要とする計画を策定し、随時フォローアップしていくことが大切である。

令和元年度一般会計・特別会計歳出決算の総括表

(単位：円)

会計	予算額	支出済額	次年度への繰越額	不用額	予算執行率		
					令和元年度	平成30年度	
一般会計	3,410,502,000	3,017,514,262	33,437,000	359,550,738	89.35%	91.73%	
国民健康保険特別会計	事業勘定	361,601,000	317,782,151	0	43,818,849	87.88%	97.20%
	直診勘定	121,432,000	98,802,896	0	22,629,104	81.36%	88.02%
簡易水道事業特別会計	326,759,000	316,839,997	0	9,919,003	96.96%	98.30%	
村営バス事業特別会計	34,090,000	32,644,903	0	1,445,097	95.76%	95.99%	
下水道事業特別会計	195,023,000	189,188,674	0	5,834,326	97.01%	96.66%	
介護保険特別会計	516,671,000	455,442,060	0	61,228,940	88.15%	87.68%	
後期高齢者医療特別会計	40,429,000	39,462,911	0	966,089	97.61%	98.64%	
特別会計合計	1,596,005,000	1,450,163,592	0	145,841,408	90.86%	92.97%	

※不用額・執行率は、次年度への繰越額を除いて算出してあります。

一般会計決算

賛成討論

新井幹夫議員

財政調整基金を1億円繰入れるなど大変厳しい財政運営をしているが、村税、使用料など自主財源の収納率を上げていくことが大切である。また、財源の有効活用の点からは、予算の段階から各事業についてよく精査し、不用額をあまり出さないことが大事である。

西沢哲朗議員

自主財源が乏しい小川村において歳入は他力本願である中、役場職員の努力によって確保できる

歳入は村税や手数料である。滞納額を昨年より減らしたことは評価するが、今後もさらに努力されたい。

基金を取崩すほど財政難の中、委託する事業が多く、中には本来職員が対処するべきものがあるように思える。

西沢榮之助議員

また、各種の検討委員会を設置してあるが、計画性が見えない。

疑問点などはあるが、不正、不当な点はないので賛成とする。

吉澤房齋議員

予算の不用額が予算総額の1割を超え非常に多いが、計画的な予算立てと執行が必要である。

また、本村の財政構造が今後変わることはなく、財源不足が続くと思われるので、不要不急なことにどう対処するかが至上命題となる。

各種審議会については、回数など予算の方針と違った運営のものが多

いが、会議の持ち方など計画性がない。

令和元年度の決算を十分分析し、今後の村発展の糧にして頂きたい。

予算に不用額があることが全ていけないわけではないが、人件費に不用額は出すべきではない。

村税の収納率を上げたことには、職員の努力を評価する。

道の駅の改修により活性化が見られ、たばこ税の増にもつながっているが、これは一過性であるので、今後の予算立てには注意して取組んでいただきたい。

また、今後は国のさまざまなバラマキの交付金を当てにせず慎重に予算立てをし、執行をすることを望む。

**国民健康保険
特別会計決算**

賛成討論

新井幹夫議員

国保の一人当りの医療費の県下での順位は、平成30年度は高い方から2番目であったが、令和元年度は5番目となり、個人の健康管理の意識向上とスタッフの努力があったものと思われる。

保険税の収納率も上がり担当者の努力を評価する。

直営診療所では、常勤医師が急に辞められたが、担当者などが努力し日替りの医師の確保に努め、更に常勤医師を迎えることができ、住民も安心したところである。

西沢哲朗議員

国保税は国保会計を運営する上で非常に重要な

財源であるが、収納状況については、現年度分の滞納額が6万円、過年度分では64万円程になり、平成30年度の滞納額を半減させた。このことについては、職員の努力を認め大いに評価したい。

**村営バス事業
特別会計決算**

反対討論

吉澤房齋議員

決算では利用料を上回る繰越しとなったが、村営バスを利用する方ほとんどが弱者であるので、以前より提案しているところだが、使用料を無料とし、村民の健康と福祉を守るために活用するべきである。

また、経費節減のため、運行委託業者の決定の際にもっと競争原理を働かせるべきである。

更に、今後の車種の選定の際も、利用実態と経

済性を考慮されたい。

賛成討論

新井幹夫議員

利用料の無料化は反対であり、村の財政難を考えると応分の負担が必要である。

委託業者の決定については、応募業者が1社のみということであるが、競争原理を働かせることは必要である。

弱者のためのバスの運行なので、更なる効率的な運行を期待する。

西沢榮之助議員

運行に係る委託料は、ドライバーの資質等を考えると妥当である。

使用料の無料化、車種の選定、運行計画などは、今後も大いにお互いに議論、検討し、改善していくべきである。

**議案第1・2号
北田教育長再任**

今定例会において、教育長の任期満了に伴い、下市場の北田愛治氏(67歳)の再任について同意した。任期は、令和2年10月1日から令和5年9月30日までの3年間である。

また、教育委員の松本淳子氏の任期満了に伴い、成就の水上弘栄氏(63歳)の任命について同意した。任期は、令和2年10月1日から令和6年9月30日までの4年間である。

議案第9号

国保加入者の新型コロナウイルス感染等による傷病手当の開始期間延長

5月臨時会に提出された改正条例の一部を改正する条例を可決し、新型コロナウイルスの感染等により休業した場合の傷病手当の開始期間が12月31日までの延長となった。

新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金 1億4870万5千円の事業配分決定

議案第5号

一般会計補正予算

9月定例会において、国から小川村へ配分される第二次分の新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金事業の補正予算が提出され、原案どおり可決した。

これで、国から村に配分される交付金は、合計1億8700万円余りとなった。

交付金は、県を通じ国へ9月8日に申請したが、11月までには交付決定となる見込みである。

なお、村では、予定していた事業で交付金対象にならなかつた場合、単独の事業として執行する考えである。

また、今回の補正の総額は4億3260万円余りで、7月の豪雨災害復旧費2億4500万円などが含まれている。

賛成討論

西沢榮之助議員

この交付金は、バラマキに近く問題があるが、希望者の多い農業用パイプハウスの設置補助、工業の活性化が期待される商品券など、有効活用が考えられている。なお、この補正の中には災害復旧関連の事業費が盛り込まれているが、早期復旧を望む。

西沢哲朗議員

住民基本台帳のシステム改修、地域おこし協力隊の報酬額の改定、地区要望に対応する道路修繕費など必要な補正も含まれている。

新型コロナウイルス対策の事業

には、感染症対策に直接関係しないものもあるが、全額交付金で賄えるものなので、適正な執行を期待する。

鎌倉一夫議員

GOTOトラベルなど、GOTOキャンペーンが行われ経済効果が期待されるが、いつ爆発的な感染の拡大があってもおかしくない状況でもある。

今回の交付金を最大限に活用し、いち早く予防体制を整え今後の感染防止に対応頂きたい。

議案第6号

国民健康保険補正予算

賛成討論

久田茂男議員

患者や医療従事者が安心して診療できる施設に

改修することに賛成である。診療所はすでに40年が経過する施設であり、施設の統合や移設などの考えもあるが、この先の人口減少等を考慮すれば改修の時期である。

吉澤房齋議員

診療所建設検討委員会での検討を見送つての今回の診療所改修であるが、財源不足の本村にとつて有効な改修ではある。

しかし、十分な検討がなされていない懸念があるので、今後十分な研究を行い、素晴らしい改修が出来ることを望む。

西沢哲朗議員

訪問診療車と訪問看護車の購入は、高齢者や一人暮らしの多い小川村にとつて必要である。改修工事は、交付金を

充当できる箇所のみでなく、この際他の財源を使用

してでも多くの箇所の改修をするべきであった。また、建設検討委員会の設置も必要ではないか。

西沢榮之助議員

施設改修は以前からの課題であり賛成であるが、大きな予算を投入するわりには、事前の検討が不十分である。事業を進める上で十分な検討をし、村民が理解・納得できる改修に取り組んでいただきたい。

鎌倉一夫議員

診療所は感染リスクが一番高い施設なので、今回の改修により感染予防につながるものと期待する。

なお、冬期間の工事になるので、建物の品質管理と患者の安全確保に十分注意頂きたい。

10月臨時議会

令和2年10月臨時

会は、10月6日に開催され、9月定例会の補正予算で提案のあった「新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金事業」の中の、感染予防対応用マイクロバスの契約を承認した。

感染予防対応用マイクロバスは、災害時の避難や住民研修等の移動時における密集を避けるためのマイクロバスであり、移送体制を強化するものである。

契約金額 958万円
契約相手 (有)高府自動車

なお、議案審議の中で、見積徴取により業者決定をしたことに対して、入札が好ましいのではないかと意見も出された。

令和 2 年 9 月定例会・10 月臨時会 議員・議案ごと賛否一覧表

○=賛成 ×=反対 欠=欠席 退=退席 (議長は議決に参加しないため空白)

Table with columns for 議案番号, 議案の内容, 審議結果, and individual council members (新井幹夫, 西沢榮之助, 伊藤幸光, 久田茂男, 大久保利廣, 鎌倉一夫, 大日方義次, 西沢哲朗, 吉澤房斎, 小林和人). Rows include 9月定例会 and 10月臨時会 items.

Table with columns: 請願, 提出者, 付託委員会, 審議結果. Lists 4 requests regarding education and local schools.

小川村議会議員研修会

8月17日 小川村役場

長野県町村議会議長会の宮寄康史氏を講師に招いて、「一般質問」についての研修を行った。

一般質問は、議員にとって最も身近なものであり、村民の皆さんの声を届ける重要な場であることから、知識の向上を図るとともに、質問の精度や技術力の向上を目的に行なったものである。

講義の中で、一般質問は村の考えを引き出す場であつて議論の場ではないこと、他団体等の事務についての質問はできないことなどの説明があつたが、これまでもあまり意識しな

いでいたことが、実際にはルールを犯していたのではないかと考えさせられた。また、質問事項についての十分な調査研究

が村の考えを引き出すことに繋がり、質問の内容や答弁が傍聴者や同僚議員にも分かりやすく理解できるよう心掛けることが技術力の向上に繋がっていくとのことであつたが、今

後、この研修で学んだことを活かして、一般質問に臨んでいきたい。研修会の中では、各議員から、一般質問に限らず議員活動についての質問も多く出され、予定時間を超えて熱のこもった研修会となつた。

(西沢哲朗)



一般質問

新井幹夫議員



村職員の採用と育成方針は

村長 計画的に採用し、 多くの経験を積ませたい

問 先日、役場職員の採用の広報があったが、どのような人材を求め、どのように育成する方針なのか。

村長 次年度の職員採用に関わる試験は、第1回目を7月12日に実施し、第2回目は10月18日に実施する予定である。

職員の採用は、その時々々の社会情勢や応募状況で変わってくるものではあるが、面接の際は、まず、この地域や住民、そして村のために役立つ気持ちはあり、責任感や姿勢はあるか判断し、また、どこの部署で

農地荒廃への対応は

問 圃場整備が行なわれた田・畑さえ荒廃してきている現状を、どのように認識されているか。

村長 これは全国の山間

も職務が遂行できるか、更に、職場や住民とコミュニケーションがとれる柔軟性や正確性があるかを考慮している。

人材の育成については、役場の仕事は多岐にわたるので、若い職員には様々な部署を経験してもらい、重要性や必要性はどの部署にもあることを認識させ、その経験を住民要望への対応に繋げてもらいたい。

役場退職者の活用を

問 小川村は、他の地域よりも少子高齢化が進ん

地域で見られる状況であり、鳥獣被害などで耕作をあきらめる方も出てきている。

農業を守ることが、村の景観を守ることにも繋がると考えているが、担い手不足の解消を図ることが大事であり、現在、認定農業者が14名、集落

認定農業者が14名、集落

であり、更に財政は自主財源が少なく国からの地方交付税頼りであるなど、取り巻く環境は厳しさを増している。

そんな中で、退職する職員を、再任用職員ではなく、ある期間採用し、その知識・経験を活かすことを考えては如何か。

村長 職員の定員、職務状況などを勘案し、更に計画的に職員を採用することに対応したい。

営農組織が8団体あり、それに加えて農作業受託組合、農林公社などの力を借りて村の農業を守ってきたい。

また、村としても支援できる部分は支援することを考えている。

交通安全対策は

問 お盆の時期には県外車が増加し、今年はおりピックアップ道路で2件の事故があり、更に村道1号線でも事故があったが、村の交通安全への取り組みを伺いたい。

村長 村では、交通安全協会の各地区の皆さんに、春・秋の交通安全街頭指導、カーブミラーの設置・交換等に協力いた

だいている。
また、小学校入学時には黄色の帽子を配布し、保育園・小学校・中学校では交通安全教室を開催している。

更に、チャイルドシート購入時の補助、高齢者運転免許返納への支援なども行なっている。

要望 今後は、更に安協役員、総務課、建設経済課が連携して取り組んでいただくことをお願いしたい。



街頭指導の様子

テレワークを考慮した 村営住宅建設を

村長 検討する必要は十分ある



一般質問
西沢榮之助議員

問 新型コロナにより、出勤するのではなくテレワークをする人が多くなっており、今後テレワークを取入れる企業が多くなると聞く。そこで、テレワークができる部屋を併設した公営住宅の建設に取組んでは如何か。

村長 新型コロナにより、報道等でもテレワークがクローズアップされており、中小企業を対象にし

た国の補助制度もある。そのような社会の流れの中で、中山間地域の農村村においては良い環境の中で仕事ができるので、検討する必要性は十分にあると思われる。

新型コロナ 個人への対策を

問 国からの感染症対策臨時交付金を財源とした事業の補正予算が提出さ

れたが、個人に対応した事業が少ないので、村単独の事業の実施は如何か。また、PCR検査の支援をしては如何か。

村長 コロナ感染症の及ぼす影響は大きく、村内でも多くの人に影響が出ている。

国から交付される第二次の新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金は1億4600万円であり、その交付金そのものが村独自の事業に使えるものである。

また、PCR検査料金への支援は必要なことだと思われるので、検査件数など

状況をみて対応したい。

旧知事公舎 来館者を増やす 対策を

問 郷土歴史館に併設している旧知事公舎に入館するには入館料が必要であるが、気軽に入れるように無料にしては如何か。

教育長 入館者は年間約350名位であり、無料にしても施設維持の財源としては大きな影響がないので、多くの人が利用できる施設にするために、前向きに検討したい。

未使用施設の 有効利用を

問 現在使用していない公共施設について、移住者や若者の作業場や、テレワークのできる部屋等に改修し、利用希望者を募ったらどうか。

村長 公共施設の有効利用は大事なことであるが、公共施設等総合管理計画において、床面積を14%減らす目標があり、老朽化や使用目的のない施設は取壊しを前提に考えている。



返還された瓦



薬師寺東塔

郷土歴史館 興味わく展示を

問 今までと違った斬新的な展示の考えはあるのか。

教育長 今後は、百姓一揆関係や、刀剣などの展示を予定している。

また、現在改修している奈良の薬師寺の東塔へは、以前の改修工事の際、昭和27年に北小川小学校・中学校の生徒が瓦を寄贈しているが、今回その一部が返還されることになったので、企画展を行い、長期的に展示する予定である。



再利用できないのか、旧小根山保育所

公共施設等総合管理計画の見直しは

村長 個別計画策定後に見直す



一般質問
西沢哲朗議員

問 公共施設等総合管理計画は令和10年度までの計画となっているが、計画期間や計画内容の見直しは行なっているのか。

村長 計画は平成28年度に策定したもので、それを受けて各施設の個別計画を令和2年度中に策定することになっている。管理計画の見直しは個別計画策定後の令和3年度中に行なう予定である。

人口に則した
公共施設数に

問 令和10年の推計人口は2302人に減少するので、公共施設の床面積を14・4%減らす計画となっているが、今の予測では人口はもっと少なくなりそうなので、更に床面積を削減する必要があるのではないか。

村長 今ある施設が村民の皆さんにとって必要か不用かが大事であって、床面積を減らすことが目

標ではない。減らす床面積については、個別計画策定を待つて見直したい。

施設を維持する財源はあるのか

問 施設が村民にとって必要なことは分かっているが、施設の更新費用は今後40年間に184億円必要という計画である。この計画があると公共施設等適正管理推進事業債という村債が使えらるが、

単なる建替えや修繕などには使えないので、全て村費で賄う必要がある。施設を削減することが必要となるのではないか。

村長 管理計画に基づいた村債については、充当率90%、交付税での措置率50%のものがあるが、小川村では、過疎対策事業債が使え、交付税での措置率が70%と有利であるので財源として考えている。



改修の必要性が見込まれるびっくらんど小川



今後、有効利用が大いに期待されるアルペンドーム

問 過疎対策事業債には割当てられる枠があり、今年度は申請の80%のみであった。更に、過疎対策の法律は今年度で切れるが如何か。

村長 過去、法律は何度か更新されてきた。過疎計画基本法が今年度で終了となるとは思っていない。

個別計画策定には
村民の声を

問 公共施設は、造るのは自治体であるが、村民

の皆さんの財産である。施設の廃止や売却等には村民の皆さんの意見が一番大事である。意見を反映させた個別計画が本当に今年度中に策定できるのか。

総務課長 現在、169施設の個別計画について、来年の2月末をめざし策定中であり、令和3年度に総合管理計画の見直しを行う予定である。

個別計画策定時には村のホームページ上で村民の皆さんから意見を募りたい。

40年経過の水道施設の 長寿命化計画は

村長 順次、改修事業を進めている



一般質問
久田茂男 議員

問 成就浄水場などは、今年度で建設以来40年を経過するが、改修など長寿命化計画を伺いたい。

村長 導水管については、20年の耐用年数が経過した平成14年から16年度までの3カ年にわたり、総額11億円の事業費をかけ布設替えを実施した。

現在は、主に送水管の布設替えを、平成30年度から令和4年度までの五カ年計画で実施している。

平成30年度は成就、上野、大久保、立屋地区、令和元年度は美会、島田、二反田、夏和、中尾地区を実施した。

今年度は釜蓋、中尾上、夏和和田地区を実施している。令和3年度は絹張、吉刈、十二倉、中山地区、令和4年度は露畑、久木、市之口、味大豆地区を実施する予定である。

大事な水源
桐山砂防ダムの現況は

問 平成27年度の給水戸数が1068戸、令和元年度は1019戸で、49戸減少している。また、年間有収率は、27年度が74・0%で、元年度は75・5%である。

さて、施設の経過年数が増える中で、維持管理費の増大が見込まれるが、浄水場と桐山砂防ダムの水源の状況を伺いたい。

村長 塩沢・薬師浄水場はまだ新しく心配ないが、成就浄水場は既に40年を経過しているため、早々に改修を検討する必要がある。

桐山ダムは砂防ダムであり、ダムからオーバーフローした水を取水して水源としている。取水施設としての桐山ダムは特に不具合箇所がなく修繕を必要とする状況ではない。また、ダムが老朽化等で支障が出た場合には、土尻川砂防事務所と



老朽化が見られる桐山砂防ダム

協議したい。

新型コロナウイルス対策

県との連携は

問 長野県の新型コロナウイルスウィルス感染予防対策本部と村はどのように連携しているのか。

村長 県からは日々情報が入っており、村の対策に反映させている。

また、村内に感染があった場合などは、長野保健所と連絡を密にして対応していくことになる。

社会教育事業 分館活動への支援は

問 小川村公民館は、ど

のようなコロナ対策をして社会教育活動を進めているのか。

また、分館は独自に様々な情報を集め判断しながら進めているが、本館としてはどのような支援をしているのか。

教育長 公民館では、国・県・村の方針を基本に事業を進めている。

新型コロナウイルス感染の蔓延状況などを考慮し計画されている事業を精査したうえで、各分館との事業の共有を図るため、9月末に分館長主事会議を開催する予定である。

毎年開催している文化講演会は三密を避けて実施することは不可能であるので中止とし、熟年大学もソーシャルディスタンス(社会的距離の確保)や高齢者が罹患した場合のリスクを考え中止したい。

なお、成人式は、祝賀会を中止にするなど行事内容を変更し実施したい。

アルプスライン沿線に宅地分譲を

村長 土地開発公社理事会で検討する

一般質問
大日方義次議員



景観の良いアルプスライン沿線



本来の目的使用が少ない移住体験宿泊施設（大洞）

問 大洞地籍の土地単価は安く宅地造成の費用が安く済み、宅地分譲すれば、東京、大阪の方が購入するのではないかと。また、鬼無里経由であれば、長野市へも短時間でいけるが如何か。

村長 今まで44区画の宅地分譲をして、1区画のみ売れ残っているが、購入の9割が村内者である。課題は通勤距離であり、上野の分譲地でさえ

売れ残ってしまったが、通勤状況も変わってきているので、土地開発公社の理事会へ提案し検討したい。

移住希望者の動向は

移住体験宿泊施設の利用状況

問 大洞にある二地域居住、移住、定住の目的で

建設した移住体験宿泊施設の利用内容を伺いたい。

村長 体験的に小川村に1週間から10日居住し、生活環境、地域性、気候を判断頂くための施設であるが、実際の利用者の目的の多くは、周辺の観光である。

総合戦略推進室長 利用者からは、近くに中古住宅や宅地がないかという問い合わせもなかった。

空き家活用

村でリフォームを

問 村には空き家改修事業補助、空き屋活用事業補助があるが、空き屋の有効活用が思うように進んでない状況である。

そこで、借り手や買い手がありませんな物件について、地主と相談し村でリフォーム代金を立替えては如何か。

村長 現在でも十分な補助内容である。また、村の責任でリフォームした場合、後々更に改修費が



空家バンクに登録されている空家(大久保)

かかることも考えられる。

問 古いままの住宅を見学させても売れないが、改修すれば、よほど生活環境の悪い場所でない限り、確実に売れるものと思うが如何か。

村長 リスクを考えると、実際に立地条件と空き家を確認した上で、補助を受けて自分に合った改修をするのが良いと思われる。

また、空き家バンクの登録件数が少なく、選択の幅も狭い状況である。

コロナ禍中 公民館活動にどう取組む

村長 基本的には中止せざるを得ない

一般質問
鎌倉一夫議員



問 新型コロナウイルス感染拡大防止対策が求められている中、公民館事業を始め分館活動が中止となり、事業が停滞しているが、この現状をどのように捉えているのか。また、どのように対応していくのか。

教育長 コロナ禍では無理な活動はできない。しかし、できないからやめようという言葉が先行し、事業が停滞していることも事実である。

今後予定されている文化協会主催の作品展やステージ発表については、

今後予定されている文化協会主催の作品展やステージ発表については、



コロナの影響によりびっくらんどで行われたヘルススクリーニング

感染状況を注視しながら検討していきたい。

このときにこそアフターコロナの準備を

問 生涯学習により、自己を高め、その学びを社会に活かすことで、より豊かな人生を送ることができると言われている。

コロナ禍のときだからこそ、担当者には将来を見据えた準備が必要と考えるが如何か。

教育長 社会教育の中枢である公民館では、集う・

学ぶ・結ぶを基本に公民館活動を展開してきている。今までの事業が何とかできないか、何ができるのかを考え行動に移していくことが重要であると考えている。

村民の健康管理

きめ細かな取組みを

村民の医療費は

問 小川村の国保の医療費は県内において常に高額医療費ランキングの上位に位置しているが、現状を伺いたい。

村長 令和元年度の国保の医療費総額は2億4500万円であり、減少傾向ではあるものの一人あたりの医療費は県下で5番目に高い状況である。

村民の健康管理に 専門職員の有効活用を

問 保健センターには、保健師2名、管理栄養士1名が在籍し、村民の健

康管理に携わっている。村民が生活習慣病に

かからないために、全村民を対象とした健康教室を定期的開催するなど、きめ細やかな村独自の取組みが必要ではないか。

村長 今までも地域に出向き指導は行なってきたが、健康寿命を延ばすためにも健康管理に積極的に取り組むよう努めたい。

各地区の

事故・災害保険 へ支援を

自治会活動保険加入 の支援拡充を

問 各地区では道路沿いの草刈りなどでケガをして入院した際の補償として自治会活動保険に加入しているが、その補償内容は地区によって違っており、不十分な地区も少なくない。

そこで、村からの保険掛金への補助額を増額し、村民が安心して地区の作業や行事に参加できるように取り組むべきではないか。

村長 現在、村では最低保証の掛け金の一世帯当たり74円を補助しているが、これは15年前と同額であり、現状に合わなくなっている。次年度予算編成の際に検討したい。

地区集会所の 災害対策に支援を

問 最近の自然災害は想像を超える被害をもたらしている。多くの個人住宅は、地震にも対応する総合保険に加入しているが、区や組の集会場は火災保険への加入のみであり、自然災害に対応した保険へは加入していないために、大事な共有施設の再建ができない可能性が高いので、村からの支援が必要ではないか。

村長 各地域にある集会所は、災害発生時には避難所として利用することが考えられる重要な施設であるが、区へは、地区の運営費用として村全体で約400万円を交付している。活用されたい。

人口減少対策 村営住宅の建設計画は

村長 場所等を検討し 状況に応じて建設する



一般質問
大久保利廣 議員

村営住宅の建設促進

問 村にとって、人口減少対策は最重要課題である。特に村営住宅の建設は移住・定住対策に不可欠な施策であるが、現在は、ほとんど空きがない状況なので、早急な対策が必要ではないか。今後の住宅建設の方針を伺いたい。

村長 村営住宅は116棟あるが、空いているものは、集合住宅が3部屋、移住・定住を目的とした住宅が2棟のみである。需要はあるので、今後も場所等を検討し、随時状況に応じて取り組む。

要望 コロナ禍により、テレワークやリモートワークの取組みが進み、地方への移住希望者が増えているので、要望に応えられる受け皿の確保を望む。

宅地分譲の促進

問 定住といった面では、

村営住宅の建設よりも効果があり、事業費も少なく済む宅地分譲に積極的に取り組んで如何か。

村長 既に造成した中で、残っているものは1区画のみである。希望者に紹介するためには数件は必要なので、前向きに検討したい。

空き家購入等の需要に応えるには

問 本村への移住希望者で、多くの方が空き家バンクへ登録しているが、空き屋の登録が少なく要望に応えられていないので、対策が必要ではないか。

村長 ホームページでの周知、区長組長会議での情報提供の依頼、固定資産税の納税通知書に周知と依頼文書を同封している。また、昨年12月からは、月に1回、移住や売買を対象に空き家バンク相談会

を実施している。

問 将来、空き家になった際の管理・対応方法の資料に活用するために、現在住んでいる方に意識調査を実施しては如何か。

村長 現在住んでいる方に意向を確認することは重要ではあるが、各々事情があり調査を行うタイミングなどが難しく、今のところ調査は考えていない。

関係人口対策等の推進

問 交流、関係人口の取り組みは、経済効果のみならず移住・定住にもつながり、村に大きな影響がある施策である。

また、コロナ禍によって変化しつつある生活様式に対応した施策についても必要であるが、今後の方針を伺いたい。

村長 交流、関係人口については、ふるさと村民事業、同級会助成金、ふ

るさと納税などに取組んでいるところである。

また、観光施設の維持において、通常の整備改修に併せ、新しい生活様式に十分対応できるよう現場の状況により順次施設整備を進める。

村のPRの推進にドローンの導入を

問 購入費も安く、免許も必要のないドローンを導入し、ホームページなどで活用するなど、ソフト面の充実を図りPR効果をあげては如何か。

村長 観光パンフレットには、既にドローンで撮影した写真を使用しており好評である。効果が期待できるので、ドローンについては導入に向け検討する。

ふるさと納税の推進を

問 ふるさと納税は、返礼品による村のPRと納

税による財源の効果があり、貴重な制度であるが、今後の方針を伺いたい。

村長 現在の返礼品は村の特産品の28品目で、りんご、おやき、大豆製品等に人気があり、十分な品目数である。なお、金額での返礼率は、総務省の指針に沿った3割以内としている。

地区要望対応工事 早期着手を

問 地区要望対応工事の着手に遅れはないか。

建設経済課長 現在、60箇所で全体の約2割に対応している。災害復旧への対応が遅れ気味ではあるが鋭意努力をしている。

要望 今後、災害時などには職員を補充し、災害の早期復旧と通常業務の遅延がないように望む。

委員会報告

総務建経常任委員会

閉会中の委員会活動

令和2年8月11日、午前9時より委員5名、職務出席で議長、委員外の3名の議員、担当課職員が出席し、管内視察及び所管事務調査を行なった。

《所管事務調査》

【総務課関係】

令和元年度決算概要

一般会計と特別会計を合わせると、歳入決算額46億5116万6577円、歳出決算額44億6767万7854円、差引残高は1億8348万2803円で前年より7833万8199円の減となった。

財政状況を表した健全化判断比率は、実質赤字

第2次 新型コロナウイルス感染症対応 臨時交付金事業

比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率は全て早期健全化基準を下回っている。

令和2年度

普通交付税額決定

村の重要な財源である普通交付税の本年度の額は、15億6112万5000円で、前年度より7714万円程増えており、当初予算より1億4112万5000円、約9%の増となった。

消防本部指令車更新

28年間使用してきた消防本部指令車の更新が決まった。一般社団法人日本損害賠償保険協会からB級小型動力ポンプ搭載の軽自動車の寄贈が決定し今年中に納入される予定である。

公共施設等総合管理計画 進捗状況

各施設の個別計画策定については、8月末に係長以上で検討委員会を開催し、それ以降、各部署で検討し、今年度末までには策定が完了する予定である。

【建設経済課】

豪雨災害の状況

7月の豪雨により、90箇所を超える災害が発生した。その内、公共土木施設災害は14箇所、農林施設災害は21箇所、砂防関連は5カ所、治山関連は8箇所である。

砂防関連の緊急地すべり対策で対応する下北尾

はフリーフレーム設置と横穴ボーリングを行い、中牧沢は調査ボーリングを行う予定である。

また、その他砂防関連の塩沢、島田沢、片岡沢は10月頃から対応し、高山寺の民家裏の崩落は県

の単独事業で対応する。公共土木施設の災害復旧工事は、国の査定が9月半ばなので、10月末までには工事が発注できるとのことである。

公共施設の維持費削減 払下げの予定

耕雲閣や林りん館については払下げの計画はあるが、国などの補助金を使用して建設したため、木造建築の耐用年数25年を経過しないと払下げが出来ないとのこと、指定管理施設のため、耐用年数が経過後に、指定管理期間を考慮し公募で払下げるとのことである。

地区要望の状況

18区から昨年とほぼ同数の450件程の要望が出された。その内、村への要望が340件程、県への要望が110件程となっている。県への要望は、9月1日に予定しているが、

新型コロナウイルス感染症防止のため、調査箇所の同行人数を絞って実施することになった。

コロナ禍中 各種イベント中止

新型コロナウイルス感染症防止のために、少年サッカークラブ、サマーフェスティバル、おまつりスペシャルは中止となった。

《管内視察》

村では施設の統廃合・長寿命化等を計画的に行ない、施設の更新などの財政負担を軽減・平準化するために、公共施設等総合管理計画を策定したが、計画の進捗状況を検証するために、遊休施設である「旧小根山保育所」を視察し有効活用を建言した。また、払下げが予定されている「耕雲閣」などを視察し、現在の施設の状況を確認した。

委員会報告

社会文教常任委員会

閉会中の委員会活動

令和2年8月6日、委員4名のほか、議長、委員外5名の議員が出席し、担当職員のほか、社会福祉協議会の事務局長、次長にも参考人出席を頂き、所管の事務調査を行なった。

《所管事務調査》

【教育委員会関係】

新型コロナ禍
小・中学校の対応

休校により不足していた授業数は行事の見直しなどにより6月末現在で、小学校では8割、中学校では9割取り戻せたようで、更に、夏休みも7日間短縮することにより概ね回復できるとのことである。

新型コロナの感染防止で行事を縮小していたが、小学校の運動会、中学校の若鷹祭には来賓の招待を予定している。休校時にも対応できるICT環境の整備の一環でデジタル教科書の整備も計画している。中学校では、現在の外国語指導助手（ALT）の任期が9月30日となっているが、新型コロナ感染防止のため日本とALT自身の国の出入国が規制されて動きが取れないため、当面は現在のALTを再任用し、状況に応じ必要な措置を講ずる予定である。

社会教育施設の運用

ふるさとらんど小川は、3密を避けながら、通常に企画展などを開催しているが、来館者の名簿を作成している。

びっくらんど小川では、合宿等の体育館の利用申し込みはなく、ト

レーニングルームは村内者のみの使用とし、プールは利用者名簿を作成している。

公民館の図書室では、利用者名簿を作成している。熟年大学などの行事は参加者数や内容を検討することであり、文化講演会は参加者数、経費等を考慮し中止の方向である。

【社会福祉協議会関係】
施設の利用状況

デイサービスは月曜日から金曜日に行なっている。

高齢者生活福祉センターには一人部屋6室、二人部屋2室あり、ある程度自立されている方の3名が利用している。高齢者生活支援ハウスには一人部屋8室、二人部屋1室あり、日常生活が困



コロナ対策を施し企画展を開催するふるさとらんど小川



新型コロナ禍
各施設の利用状況

小川の湯では、新型コロナウイルスの国内感染者の増加に伴い8月1日より県外者の利用を制限している。解除は今後の感染状況を見て検討することである。

保育園では、4月中旬の非常事態宣言により登園自粛及び希望保育としたため、登園者数は通常の4割から7割となった。

【住民福祉課関係】

診療所では、発熱者の来院の際に看護師が外で症状を確認している。待合室では1席空けて着席していただき、整形外科の診察日は混み合うために保健センターも待合室としている。

ヘルススクリーニングは、3密を避けるためにびっくらんど小川で実施する予定となっている。企業センターでは、新型コロナウイルスの影響で物流が途絶え仕事が少なかったが、7月からは徐々に回復してきたようである。



高齢者支援の拠点サンリング

村民の声

～村の公共施設施策に思う～

私にとって有難い公共施設

高府町 匿名希望

私は高府町に住んでいる関係で「びつくらんど」「バステイ高府」をよく利用しています。「びつくらんど」に関しては、もう15年ほどジムのお世話になっています。

残念ながら、此のところ新型コロナウイルス関係で使用制限

小川村公共施設施策に思う

IM

リニューアルした道の駅おがわにコンビニを出店計画したことについて、賛否両論があったようですが、若い人を中心とした人達の要望もあり、コンビニの持っている利便性を考えるに必要な施設だと思えます。しかし、建設費が再三増額さ

があったり施設の使えない場所もあります。昨年までは土日といえどもや大人のフットサル大会が開催されたりプールも賑わっていました。また、ロビーでは勉強に励む中学生の姿もありました。高齢者対象のプールや各部屋での健康教室は6教室ほどあり、村内外(6対4の割合)延べ1000人程が登録しているとのこと。

現在は長寿社会で健康ブーム。せつかく整った設備がある

れたり、施設の賃貸料の問題など、計画の甘さが見て取れます。

また、村との共有スペースについては、コンビニ業界にとって商品棚の位置や配列の仕方によって客の流れや、スペースの取り方により売上げが大きく左右されるようです。

議会で取り上げられた共有スペースの配置の問題についても計画の甘さが見て取れます。行政が描いた道の駅の計画と違っているようにも思われます

のもっと大勢の村民に利用してほしいと思います。

次に、バス停と地域のコミュニティスペースとして建設された「バステイ高府」ですが、これも良く利用している公共施設です。

大小会議は無論のこと、待ち合わせや小学生の遊びの場であったり、地域イベントにも使えて大変有難く感じています。昨年開催された「バステイ落語会」では、久々に生の落語を聞くこ

が、ともかく開業に至っていることは、村の行政サービスの一環と考えればどうでしょうか。

隣の味菜もリニューアルされ、さんさん市場と一列に配され、通り抜けも出来て、以前よりも利用しやすい道の駅になったと実感しています。

オンラインピク道路ができてからは村へのアクセスが良くなり、土日には県外車が多くなつたように思います。立ち寄ったお客様に美しい小



川村の良さや行政の政策をアピールして、やがて移住に繋がるような道の駅になることを願っています。

とができ楽しませていただきました。また、予約すれば誰でも自由に使えるカラオケ設備もあるので、ここ数年お盆に帰省した兄弟、子どもや孫達とカラオケを楽しみました。しかし、今は非日常の世界。せつかくこうした優良施設があるのに自由に使えないのが本当に残念です。新型コロナの早期終息を願います。

議会の動き

- 8月
 - 6 社会文教常任委員会 総務建経常任委員会
 - 11 小川村議会議員研修会
 - 18 長野広域連合議会運営委員会
 - 24 長野広域連合議会臨時会
 - 25 総合戦略審議会 議会運営委員会
 - 26 議会運営委員会
- 9月
 - 1 県要望箇所現地調査
 - 2 9月定例会招集 議会全員協議会
 - 3 議会 議案説明
 - 4 議会 議案説明
 - 8 議会 議案説明
 - 10 議会 議案説明
 - 11 議会 議案説明
 - 15 議会 議案説明
 - 18 議会 議案説明
 - 19 議会 議案説明
- 10月
 - 3 中学校若鷹祭
 - 6 10月臨時会招集 議会運営委員会
 - 13 議会 議案説明
 - 19 議会 議案説明
 - 26 議会 議案説明
 - 27 議会 議案説明

● 年末年始のご挨拶は失礼させていただきました。公職選挙法の規定により、議員が年賀状などの挨拶状を出すことは制限されています。小川村議会議員一同

9月18日、未だコロナ禍中での9月定例会が閉会となりました。マスク着用のため、気にもなり、喋りづらそうなきもありません。制約の中で、密の回避のために委員会室では狭いため、本会議以外の多くの会議で議場を使用しました。

議長のつぶやき

議長 小林和人

り深い理解と研究のもとに審議できたいものと思っています。今後においても、立案への参加や事前に検討できる機会を設けられることを願うものです。議員の学習や理解力と立案能力の向上にもなります。意見が多様過ぎてまとまらず、船頭が多すぎることのない程度で、もちろん多様な価値観も大事ですが。

また一方、決算認定の審議では、金額の大小に関わらず、一つ一つの積み重ねの大切さとその重さを改めて感じさせられたところです。一年分の決算書ですので予算書同様、全てに目を通すことは中々大変です。時間もかかりませんが、その内容を理解して可否を判断するために、ただ漫然と見ているだけでは判断ができません。もう少し時間と理解力も欲しいと思うときもあります。いずれにしても、全ての案件について十分に理解し吟味したうえで、最終的に可否を決定し、住民に負託された責務を果していきたいと思えます。(吉澤房齋)

編集後記

コロナ禍に豪雨災害と大変な事態が続いてきましたが、本村においては今日まで、人命に係わることも起きずに何よりだったと思われまます。

この9月定例会には、コロナ対策のための診療所改修が提案、可決されました。この改修工事(8100万円)を進めていく中で、後の議会全員協議会において、設計業者を入札ではなく随意契約で決定したことが判明し、このことについて疑問の意見が出たところです。議会は予算可決後も、村の事業の進め方をしっかりと監視していく役割があります。皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。(吉澤房齋)

- 議会議報編集特別委員会
- 委員長 久田 茂男
 - 副委員長 大久保利廣
 - 委員 伊藤 幸光
 - 委員 大日方義次
 - 委員 吉澤 房齋